

宮城 社会

テーマは「水」 仙台二華高の国際化事業始動

仙台二華高（仙台市若林区）が国際的な課題の研究に当たる「スーパーグローバルハイスクール（SGH）事業」の指定校として活動を始めた。水問題をテーマに選び今月、生徒4人をタイとカンボジアに派遣。メコン川流域の国が抱える問題点を調べる。

SGH事業は文部科学省が本年度初めて実施し、研究を通じて世界で活躍できる人材を育てるのが狙い。全国32都道府県の高校と中高一貫校の計56校が指定された。東北からは仙台二華中・高と青森高（青森市）の2校が選ばれた。

指定期間は5年。指定校には海外研修や外国人教員の確保といった事業費として年間上限1600万円が交付される。

仙台二華高の研究テーマは世界の水問題解決に向けた取り組み。中国や東南アジアの計6カ国が関係するメコン川流域が舞台だ。

予備調査として2～11日、2年生4人と教職員4人の計8人がタイとカンボジアに向かい、エビ養殖場の労働環境や湖の水質などを調べる。

12月にも予備調査があり、タイの北部と東部の町を1年生4人が訪れる。2015年夏と冬の2回、本調査として2年生10人ずつがメコン川流域に行く。生徒たちは通訳を付けず、英語を使ってやりとりする。

7月24日に同高で事前研修会があり、8月の予備調査に臨む生徒4人が参加した。東北大工学部研究員でネパール国籍のスジャータ・マナダーさん（30）を講師に招き、英語でやりとりしながら東南アジアの水問題の現状や地球温暖化の影響を学んだ。

参加した佐藤瞬亮君（17）は「現地の人々が水とどう関わって生きているのかを現地で知りたい」と意欲を語った。

仙台二華高の加藤徳善教頭は「さまざまな文化や環境の中で暮らす人が抱える問題を知ることが世界市民への第一歩。課題を解決できる人材になってほしい」と願う。



事前研修会で世界の水問題について説明を受ける生徒たち＝7月24日、仙台市若林区の仙台二華高

2014年08月01日金曜日

関連ページ: [宮城 社会](#)